

【第2回港南区協働による地域づくり推進協議会議事録概要】

藤田会長

・他の団体との連携、あるいは、協働という視点で、各団体が重点的に取り組んでいること、今後取組んでいきたいことについて意見を伺いたい。

福山委員

・地区社協、民生委員、自治会役員が、町内会単位で情報共有することが大切だと思っている。

・守秘義務があるが、世話役となる人が、「あの人はどう」「この人はどう」など昔の井戸端会議のような形で情報を集め、サポートが必要な人を地域の役員が把握していくことが重要。そうやって情報を集めた地域のマップづくりがこれからの課題だと思っている。

・高齢者だけでなく、特別支援学級に通っている子がどのくらいいるのか。地域としてどうやって把握して対応していけるか考えていかなければならない。

高柳委員

・健康づくり、特に、ウォーキング推進ということで力を入れている。

・青少年指導員、スポーツ推進委員、ヘルスメイトとともに昨年からウォーキング連絡会を開催し取り組んでいる。

・今回、ウォーキング連絡会では、「一緒にできること」を検討している。3月8日の「ひまわりウォーク」の時には、保健活動推進員もウォーキングを行うこととして、その日には区内中、ウォーキングの姿が見かけられるよう、みんなで楽しくウォーキングをしようと話し合っている。

・11月1日から、横浜市のウォーキングポイント（40歳以上の人対象）がスタートする。まずは、歩数計を申込むところから始めていく必要がある。これと並行して、横浜市の健康スタンプラリーも始まる。これは、健康づくりの取組に参加し、スタンプを集め応募するということで、年齢制限はありません。

・地域づくりといっても、一人一人が健康で、健康長寿を伸ばしていくことが基本になると思う。健康づくりに取り組んでいきたい。とにかく、皆さんとともに、歩いていきたい。

小玉委員

・ウォーキングポイントなど新しい取組については、高齢者が先頭になってやってもらいたいということだと思う。

・一人暮らしの人などが、歩くことで健康を維持していくことが大切だと思う。

・地元の野庭団地では、10月に連合・地区社協共催で歩こう会を実施し、約90名が参加した。始めたばかりなので、まだ多いとは言えないが、続けていきたい。

- ・シルバークラブは、健康、友愛、奉仕活動3つの活動を、25年前から、全国、横浜市、港南区とも推進している。
- ・上大岡駅の帰宅困難者訓練に、ひざり・野庭団地のシルバー19名が参加した。大震災が起きたら、近隣のシルバーにも手伝ってもらえると、駅としても助かると言っていた。
- ・敬老パスの裏に、住所と電話番号を記載するようになっている。認知症対応として、シルバークラブでは徹底している。

守分委員

- ・健康横浜21の推進ということで、健康寿命を伸ばすことに力を注いでいる。
- ・栄養（食での改善）だけでなく、運動をしなければという状況なので、ウォーキングも推進している。
- ・10月は健康月間ということで、10月19日の「ひまわり健康フェア」では、「料理じょうずは塩じょうず」というテーマで、減塩活動を行いました。減塩することで生活習慣病の予防を行おうと、区の協力を得ながらリーフレットを作成し、取組を進めている。
- ・ウォーキング連絡会で3月8日に開催する「ひまわりウォーク」については、これから詳細な計画を練るところだが、コースの設定やどのようなことが一緒にできるのかを考えながら進めていきたいと思っている。
- ・最近、地域ケアプラザや地区センターから依頼があり、骨太クッキング（カルシウムをとろう）、ロコモティブシンドローム予防などを実施している。

大友委員

- ・超高齢社会になり、一人暮らしの人でごみ出しができない人がいると、環境事業推進委員が、お手伝いを行っている。
- ・子どもたちのこともなおざりにはできない。学援隊で子どもの元気なあいさつで地域活動して、子どもたちから力をもらっている
- ・見守り支えあいに対して、環境事業推進委員もウエイトを置いて頑張っていく。

二河委員

- ・他の団体との連携としては、さわやかスポーツの方や、消防とも協力して研修などを実施している。
 - ・今年の夏休みには、スポーツ推進委員の嶋田さんと一緒に区内の子ども達を連れて宮城県へ「ひまわり交流」に行ってきた。また、これ以外にも、各地域では、運動会や餅つきなどの手伝いしている。
 - ・「ひまわりウォーク」は他の団体と連携できるということで楽しみにしている。
- 3月8日には、4つのコース考えている。港南台北公園スタートのAコース、上永谷駅連絡通路スタートのBコース、港南ふれあい公園スタートのCコース、永谷地区センタース

タートのDコースである。いずれのコースもゆめワールドの会場がゴールで、歩いた充実感とさわやかな天候を願っている。ゴールを同じにすることによる、良い意味の化学反応みたいになればと思う。

・スポーツ推進委員をはじめ各団体の協力を仰いで、昨年とは違うより良い楽しいものが実施できればよいと思っている。今後も各団体と話し合い、アイデア出しなどしていきたい。

嶋田委員

・10年以上前には、三崎口、逗子から港南台まで歩くイベントを実施していた。しばらく途切れて、一昨年から「ひまわりウォーク」をやるようになった。

・4団体連携して行うという趣旨は大切なので、青少年指導員と一緒にあって、進めていきたい。

・ウォーキングについては、それぞれの地区で、ウォーキングを行っている。そういう意味では、各地区にニーズがあり、定着している。

・ウォーキング以外にも連携してやれるもの、お互いの行事、内容をよく考えるといろいろあるもの。ゼロからいろいろかき集めてやろうとすると大変なエネルギーが必要なので、それぞれが行っているものを理解していくと、無理なく自然に結びつき、アイデアが出る。また、運営面などでそれぞれの団体が協力すれば主催団体の負担が軽くなる。ゼロからスタートではなく、共通性があるものを見定めてやっていけば良いと思う。

・スポーツ推進委員として、今、力を入れているのがラジオ体操である。ラジオ体操は、学校や職場でやっていたが、小学校ではやらなくなった。地域では今も毎日6時30分からやっているところもある。県内に4人しかいないラジオ体操1級指導員が港南区スポーツ推進委員を指導している。私も講習を受け指導員の資格を得た。オリンピックに向けて頑張ろうと、全スポーツ推進委員へ普及啓発している。

・保健活動推進員や青少年指導員など体操を行っている。何か一緒にできるものがあれば、力が合わさって、よりプラスになるものが出てくると思う。

加藤委員

・上大岡地区では、ウォーキングを女性部が30人ほど集めて2年前から毎月やっていて、今は拡大して上大岡周辺を歩いている。遠くへ行く計画もあるが、交通事情などいろいろあって、実施できないでいる。

・ラジオ体操は、上大岡地区でも夏休みやっていたが、近隣の苦情もありやめてしまった。一般住民への周知を行政がするなどの協力も得られれば復活できるのでは。

長副会長

・日野連合では、何年か前から防災ツアーを実施している。その中で、危険個所を2カ所

知ることができた。最近では、防人ツアーと改称し、年2回実施している。

- ・自治会レベルでは、平成16年にウォーキング同好会ができ、毎月行っている。
- ・また、週4回防犯パトロールしているが、高齢者にとっては、このことが、健康づくりになっている
- ・イベントを大々的にやることも大事だが、イベントは、あくまでも、取組を定着させるきっかけづくりであることを理解して実施した方が良い。
- ・市社協では、毎月、区社協部会を実施している。10月のテーマは、「第3期地域福祉保健計画策定に向けた連携」ということで実施し、その中で、他区の一部からは、民生委員任せだとか、地縁団体（自治会）と連携がうまくいかないとかの意見があった。今後、行政と各種団体が連携し、みんなと一緒にまちづくりを進める中で、福祉保健計画を策定していく。この過程を通じて、港南区の活動が充実し、他の区の範となると思う。

注：毎月1回、市社協で18区の区社協会長を集め会議がある。これを「区社協部会」と呼ぶ。

五十嵐副会長

- ・民生委員は、社協はもちろん、連合町内会や各種団体の皆さんと協働していかないと活動していけないと思っている。
- ・皆さんと一緒にしながら活動していくことが基本で、協働でやらせていただけるとありがたいと思っている。
- ・10月1日行った赤い羽根募金は15か所に分かれて募金活動を行い、区内で35万円近く募金が集まった。これも皆さんのご協力のたまものと思っている。
- ・10月26日には、児童虐待防止のオレンジリボンたすきリレーを行い、区役所、地域ケアプラザの職員や永野小学校の先生などに参加してもらい、児童虐待防止を呼び掛けた。
- ・新聞をにぎわしているように、まだまだ児童虐待はある。ちょっとしたことに気付いてくればよい。みんなの目があれば、出来ることあると思う。
- ・75歳以上の一人暮らし高齢者「横浜市一人暮らし地域で見守り推進事業」を行っている。一人暮らしの方がどこにいるのか、自治会できちんと把握しているところもあれば、マンションなどではなかなか把握できないところなど、いろいろある。行政と一緒に把握に努め、要援護者の見守りにつながれば良いと思っている。
- ・ひまわりウォークについては、地域で呼びかけして、コースと通る時間を教えてもらえば、ウォーキングしなくても、近くの人が出てきて「頑張って」と応援に行くのも一つの協力のやり方だと思う。そうすることで、高齢者の方にとっては、集まって、おしゃべりする、いいきっかけになるのではと思っている。
- ・こどもの見守りや、防犯パトロールなども、歩くことになるので、みんなでやると良いと思う

藤田会長

- ・皆さんの意見を伺うと、3月8日のひまわりウォークに何かお手伝いできないかという感じである。また、見守り・支え合いも大事である。
- ・それぞれの立場で、成功に向けて応援し、協力していく。そのことをこの協議会で確認していきたい。
- ・まずは、26年度はひまわりウォークの成功に向けて各団体が何ができるのか。また、主催者として課題があれば教えてほしい。

二河委員

- ・まずは安全面が重要、スタッフをどう配置するか。青少年指導員だけで約160人いるが、フル稼働しても間に合わない。参加者は4つのコース均等ではない。参加する方は、日野地区に住んでいても永谷地区を歩いてみたいなど、他の地区に参加した人もいる。
 - ・それぞれの地域の青少年指導員と地域の人との協力が得られれば、参加者に満足していただけ。ベビーカーや、さまざまな年齢層の方も参加される。
- 今後は、青少年指導員事業部会で検討。1月に2回目の打ち合わせを行う予定。

藤田会長

- ・運営面ではどのような支援が必要なのか具体的なものはありますか。

守分委員

- ・区全体で盛り上げるなどの方策は区民全体を巻き込むことが重要。ゴールの公園で、減塩活動の普及啓発をしたいと考えている。
- ・ウォーキングを地域や、団体それぞれやっているが、新たに参加することに踏み切れない人もいる。イベントを通じて、そういう人たちのきっかけになればと思う。

長副会長

- ・きっかけをつくって、さらに習慣として定着させていくことが大切。そのための方法を合わせて考えていく必要がある。

嶋田委員

- ・区役所もバックアップをお願いしたい。

五十嵐副会長

- ・自治会でのお知らせをしたらどうか。地域では、皆さんにコースに出て応援したり、私も歩こうと思っている。お知らせをちゃんとして、ふれあい公園に行けばよいのではないか。見に行くことも地域のつながりづくりになると思う。

藤田会長

・各団体で何ができるか考え話し合ってほしい。次回の協議会で、共有したいと思いますので、よろしくお願いします。